

家庭

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
家庭	家庭総合	2	1年次・全	必履修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
家庭総合（東京書籍）		家庭科ノート		1年次必履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域生活を創造する資質や能力を育成する。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な知識や技術を身に付ける。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見出し、課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題解決に主体的に取り組んだり、地域社会に参画しようとしたり、家庭や地域の生活を創造し、実践しようとする力を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点	
1	1	第1章 生涯を見通す	4	・各ライフステージの特徴と課題を理解する。	1 2 3 1 2 3	
		第2章 人生をつくる			1 1 2 3 1 2 3	
		第7章 衣生活をつくる	5	・健康・快適・安全な生活を送るために、被服に施されている工夫について理解する。 ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう管理や手入れの工夫について理解する。 ・目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。 ・自己の家庭生活の中で課題を見だし、それを解決しようとする実践できる。	1 2 1 3 1	
	ホームプロジェクト	6	1 3			
	2	1	第7章 衣生活をつくる	7	・資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	1 2 3 1 2 3 1
			第4章 超高齢社会を共に生きる	9		1 1 3 1 2 3 1 2 3
		2	第4章 超高齢社会を共に生きる	10	・加齢にともなう心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにすると共に地域社会の一員として高齢者との関わりを考えて実践しようとする。	1 1 3 1 2 3 1 2 3
第2章 子どもと共に育つ			11	12		2 3 1 3

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	第2章 子ども と共に 育つ	(3)子どもと関わる (4)子どもとの触れ合いから学ぶ (5)これからの保育環境	1	・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるように、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
	第5章 共に生 き、共 に支え る	(1)私たちの生活と福祉 (2)社会保障の考え方 (3)共に生きる	2	・ノーマライゼーションの考え方に基づいた福祉の在り方やボランティア活動に関心を持つ。 ・共生社会の一員としての役割や生き方について考える。	1 2 3
			3		1 3 1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○家庭生活の意義や役割を理解しているか。 ○家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けているか。	○必要な資料を収集し、検討することができるか。 ○家庭や地域の生活課題を見つけ、その解決のために思考を深めているか。		○家庭や地域の生活の充実向上を目指して主体的に取り組んでいるか。
	手 段	・家庭科ノートの記事 ・定期考査	・ワークシートの記述 ・実習状況の観察		・授業中の発言 ・レポートの記事
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・期末考査、年次末考査の計3回の定期考査を実施する。 ・授業や実習に取り組む態度、提出物や作品の状況を総合的に評価する。		
学習上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席、授業態度、作品やノートなどの課題の提出状況等、平常の取組が重視されるので、授業や実習に意欲的に取り組み、提出物は期限を守って必ず提出すること。 ・ワークシート等に真剣に取り組む、自分の考えや意見を述べるができるようにすること。 ・夏季休業中にホームプロジェクトの課題があるので、計画的に実践できるようにすること。 				